

居合道たより 45号



居合道ながさき



『夏立ちし 瓶につつじの花古き』／ 正岡子規・立夏(りっか)

正岡子規が詠んだ句で立夏をむかえた花瓶にはつつじの花が飾ってあるが、春ではなく夏になったのもう古い花だ。

<風、薫る季節・・立夏>

今年の立夏は5月6日。立夏を迎え、暦の上では夏となりました。小満までの期間を言います。穀雨から数えて15日目ごろ。夏も近づく「八十八夜」の3、4日後。春分と夏至のちょうど中間にあたります。暦の上での夏の始まり。この日から立秋の前日までが夏季になります。季節のことばでは「夏が立つ」と言い、いよいよ夏が来ましたという意味があります。新緑の季節で、九州では麦が穂を出し、北海道では馬鈴薯や豆の種まきが始まります。蛙が鳴き出すのもこの頃からです。



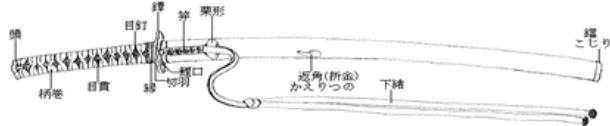
写真：藤の花

夏といっても、本格的な夏はまだまだ先です。日差しが強くなり気温が高くなる日もありますが、基本的には暑くもなく寒くもなく、湿度が低く風もさわやか。とても過ごしやすく、コロナ禍でお出掛けに最適の季節ですが、まだまだ自粛が続いています。立夏を目安に夏の準備をしてください。この頃は、晴天の日が多く、天候が安定しています。梅雨になる前のこの時季にしておくといいでしょう。

お知らせ(1)・・・第54回長崎県居合道段別選手権大会開催

令和6年度長崎県居合道段別選手権大会 5月19日(日) 長崎県立武道館(佐世保市)にて開催されます。居合道会員皆様の積極的な参加をお願いいたします。

- 日時 令和6年5月19日(日) 午前10時開会
- 会場 長崎県立武道館(佐世保市熊野町)



報告(1)・第3回長崎県立武道館祭及び居合道体験会 報告

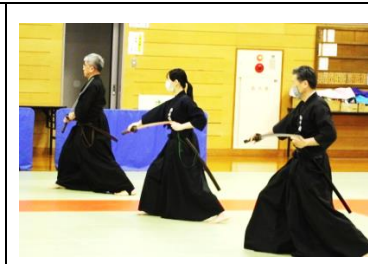
令和6年3月30日(土)午前中、長崎県立武道館において、恒例の標記武道祭が開催されました。武道祭には剣道、居合道、弓道、柔道、合気道、空手道、少林寺拳法など県立武道館を使用している武道が集まり、演武や実演を披露しました。

また、武道祭終了後に約1時間の武道体験会が実施されました。居合道部からは「葉志塾」の会員を中心に演武及び居合道体験をしました。

体験会には居合道には幼稚園児から中学生までが35名参加し、30名の保護者も一緒に体験、合計70名を超える盛況ぶりでした。体験会は真剣で用紙を切ったり、実際に日本刀を触り、初めての体験に子供たちは目を輝かせていました。



凜とした空手の演武



全日本剣道連盟居合を披露



多くの観客の熱い視線が印象的



実際に A4 用紙を切ってみました。



木刀を使っでの体験①



木刀を使っでの体験②

行事(1)・・・県剣道連盟居合道部年間事業計画(5月～7月)

- 《第1回長崎県居合道委員会・理事会》 5月18日(土) 長崎県立武道館(佐世保)
- 《第54回長崎県段別居合道選手権大会》 5月19日(日) 長崎県立武道館(佐世保)
- 《居合道七段・六段 段位審査会》 6月28日(金) 福岡県久留米市総合体育館
- 《全日本剣道連盟居合道中央講習会》 6月29日(土)～30日(日) 同上(2名)
- 《西日本地区居合道講習会》(4段以上) 6月29日(土)～30日(日) 同上(13名)
- 《全剣連居合道伝達講習会》 7月14日(日) 長崎県立武道館(佐世保)
- 《大阪居合道大会》 **令和6年度中止**(大阪万博会場整備のため会場確保できず)

読み物(1)・・・「日本刀に由来する言葉」

日本刀に由来する言葉がたくさんあります。ここではそのほんの一部をご紹介します。

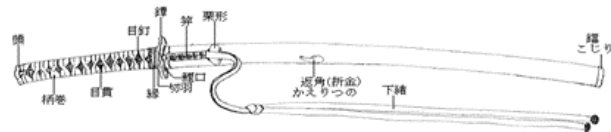
① 「切羽(せっぱ) 詰まる」

物事がさしせまって、どうにも切り抜けられなくなることを言いますが、元々、切羽は鍔(つば)と鞘(さや)が接する部分に付ける金具であり、「切羽詰まる」とは、敵が向かって来ているのに、切羽が鞘に詰まって刀が抜けない状態を言います。「物事がさしせまって、どうにも切り抜けられなくなる。追いつめられて全く窮する」切羽とは日本刀の鍔の裏表に填めてある部品だ。写真にあるように鍔の左右に置かれた楕円形の平たい金物が切羽だ。

同様に「鍔が切羽に挟まれて身動きできない状態」というのも疑問が残る。鍔がその位置に固定されているのは目釘によって刀身が柄に固定されているからで、目釘を外して刀身を柄から抜けば鍔も切羽も簡単に外れる。切羽によって固定されているわけではない。

② 「真剣(しんけん)」

木刀や竹刀(しない)でなく本物の刀のことを言いますが、現在では、一生懸命に物事をする様や本気である様を言います。もちろん元の意味でも使われています。



③ 「土壇場(どたんば)」

最後の場面や物事の切羽詰まった場合のことですが、元々は、江戸時代の首切り場のことです。



④ 「元の鞘に収まる」

刀は他の鞘に入れようと思っても入らないけれども、元の鞘にだけはすんなり入っていきます。一般には仲違いした恋人や夫婦が元の関係に戻る事を言います。

⑤ 「反りが合わない」

気が合わない仲がしっくりこない事を言いますが、元々、刀の反りは一本一本違って他鞘には収まらないことを言います。

⑥ 「目貫通り」

繁華街の一番賑やかな通りのことを言いますが、元々、目貫は柄を固定する為の金具。

⑦ 「付け焼刃」

にわか仕込みやその場しのぎと言う意味ですが、元々、日本刀は通常、特殊な土を用いて刃文を出す作業を行います。研ぎ等で見せかけの刃文を書いたものは、使っているうちに刃文が消えてしまう様を言います。



⑧ 身から出た錆(さび)

自分自身の作った原因や過ちの為に苦しむことを言いますが、長い期間、刀の手入れをしなかった為に刀身から錆が出たというのが由来。

⑨ 「しのぎを削(けず)る」

互いの刀の鑓を削り合うようなはげしい斬り合いをする。転じて、はげしく争う。*曾我物語〔南北朝頃〕九・十郎が打死の事「たがひにしをぎをけづりあひ、時をうつしてたかひけるに」

